

ふれあうナカマ



- ①産卵（さんらん）期のオスのシナイモツゴ。卵を守るため、真っ黒で目が鋭（すど）くなるなど変身します
②卵はかたい植木鉢（うえきばち）などに産み付けられます

新しい卵を迎えるために、ため池の大掃除も行いました。一生懸命です。

編集委員 芦田真央、佐藤優羽、
指導教諭 熊谷彩圭



小牛田小学校は「シナイモツゴ」という魚の「里親小学校」です。地元

里親小学校

シナイモツゴ増やす活動

あった品井沼が名前の由来で、魚で唯一、宮城県の地名がついている貴重な種類です。シナイモツゴは絶滅の危機にあります。このため「シナイモツゴ郷の会」の方々が中心となり、守って増やす活動に取り組んでいます。

シナイモツゴを無事に自然に返せるよう、これからも大切に育てていきたいと思っています。

小牛田小

学校名 美里町立小牛田小学校
所在地 美里町牛飼清水江220
電話 0229(32)2319
校長 小松 英明
児童 149人



あいさつに+1

小牛田小では「あいさつ+1」という運動に取り組んでいます。先生や友達、地域の方に対して「おはようございます」などと言うだけでなく、もう一つ何か言葉を付け足してあいさつをするという運動です。全学年、全児童が「あいさつ+1」を自然にでき、明るく笑顔であふれる学校になるように目指しています。



今回は
栗生小(仙台市)
東船岡小(柴田町)

湯元小

学校名 仙台市立湯元小学校
所在地 仙台市太白区秋保町湯向29の3
電話 022(398)2842
校長 庄子 裕
児童 86人



自然感じる天窗

湯元小には天窗があります。校舎に入って見上げると、天井が窓ガラスになっています。晴れの日、太陽の光が差しこんで見た目も空気も暖かく、雨の日、打ち付けられる雨音が大きく聞こえます。雪の日には、ふだん見えない角度から、天井に積もった雪が見られ、スリルも感じられます。自然を身近に感じられるすてきな窓です。



- ①昨年の学芸会で、湯元の田植踊を披露する児童たち
②今年は6年生が下級生に踊りを教えています

練習は6月ごろ、1年から6年生の全員で始め、11月の学芸会で衣装を着て、地域の方のみなさんの前で披露します。踊りは毎年、湯元田植踊保存会の方から教えていたでいていました。が、今年は新型コロナウイルスの影響で、8月まで保存会の先生方が来



編集委員 及川璃子、辻陽詩(6年)
指導教諭 氏家美紀

湯元田植踊

教わった動き次の世代へ

湯元小学校には地域に伝わる「湯元の田植踊」を習い、発表する伝統があります。2009年に国連教育科学文化機関(ユネスコ)の無形文化遺産に登録された「秋保の田植踊」の一つ。五穀豊穡を祈る踊りです。

男子は田植え作業を応援する弥十郎と鈴ふり、女子が早乙女、数人がお囃子の役に分かれます。それぞれの動きなどには苗を植える様子や豊穡を願う口上が入っています。

ないことが分かりました。そこで初めて、6年生が下級生に教えました。動きを一つ一つ確認しながら、教える内容を考え、分かりやすく伝えるのは大変。教える側に立って、伝える難しさや伝統の素晴らしさを感じました。この田植踊を途絶えさせず、次の世代へ伝承したいと思っています。